

ちまたでうわさの大西洋クロマグロ・パート1 / 2

2010年3月13日～25日、第15回ワシントン条約締約国会議がカタールのドーハで開催されます。トラフィックイーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信しています。会議に関する正確な情報の入手や取材にお役にください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

提案19：大西洋クロマグロ *Thunnus thynnus* を附属書 I へ掲載

今回議題にのぼるのは何マグロ？

日本人が食べているまぐろ類は通常キハダ、ピンナガ、クロマグロ、メバチ、ミナミマグロとよばれるもの。中でもクロマグロは「本マグロ」という名でも売られている、マグロの王様。



©Michel Gunther / WWF-Canon

しかも、「クロマグロ」とよばれるものには2種！

●太平洋クロマグロ

学名：*Thunnus orientalis*

●大西洋クロマグロ

学名：
Thunnus thynnus

分布：北大西洋全域、地中海など
サバ科の大型魚。
大きいものは650 kg 超

西大西洋系群

(メキシコ湾とフロリダ海峡で産卵
／成熟年齢4歳頃)

東大西洋系群

(地中海で産卵／成熟年齢8～12歳頃)

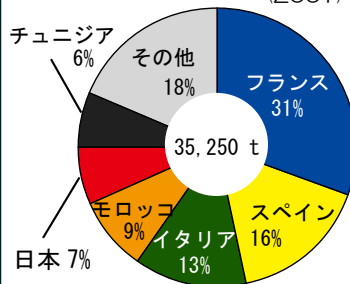
今回議題となっているのはこちら

大西洋クロマグロは輸入や漁獲で日本へ

大西洋クロマグロは様々な形で日本に入ってきます。



大西洋クロマグロの国別漁獲量 (2007)



出典：FAO Fishstat Capture production (2007)

大西洋クロマグロの蓄養生産量 (2007)

国	蓄養生産量 (t)
クロアチア	989
マルタ	772
イタリア	443
スペイン	356
キプロス	244
チュニジア	216
フランス	202
トルコ	148
ギリシャ	71
ポルトガル	13
合計	3,454

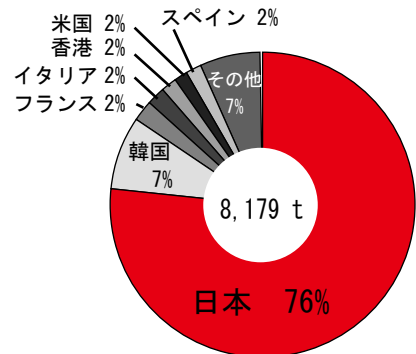
出典：FAO Fishstat aquaculture production

地中海では、数世紀にわたり、定置網漁で漁獲されてきた。

日本のクロマグロの輸入

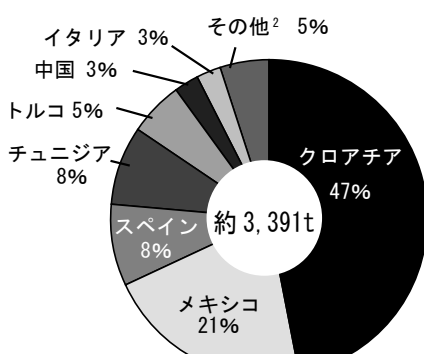
寿司や刺身としての消費。世界の漁獲量の大半は、日本が輸入 (図1)。

図1：世界で輸入取引された冷凍クロマグロ¹と日本の割合 (2007)



1: 太平洋クロマグロも含む。
注: 2007年のデータは現在入手できる最新データ。
出典：FAO Fishstat Commodities production and trade (2007)

図2：日本の冷凍されたクロマグロ¹の国別輸入量 (2009)



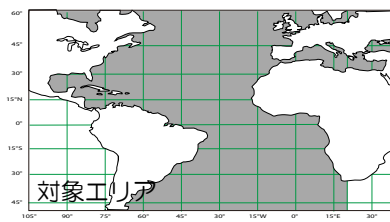
1: 太平洋クロマグロも含む。
2: その他：マルタ、モロッコ、キプロス、ギリシャ、韓国
資料：財務省、貿易統計

大西洋クロマグロの唯一の地域漁業管理機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) とは？

1969年設置
加盟国：48カ国 + 1機関
(2010年現在)

ICCATは、西経45度で西大西洋系群と東大西洋系群にわけて保存管理措置をおこなっている。ICCATできちんと管理できているかがカギに！



COP15特集ページ <http://www.trafficj.org/cop15/>